

## 人生は変えられる

合掌

6月11日、12日は、道院長支部長講習会、そして、26日は大拳士の許可状をいただきに本山に行ってきました。許可を受けた後、本山の先生方に、「おめでとう。」と声をかけて頂きました。小坂先生はとても名の知れた先生でしたから、私がおのちを引き継ぐというと、5段審査の時も、道院長認定研修会の時も、たくさんの先生方から、励ましの言葉を頂いてきました。本当に嬉しいことです。

何度も言っていますが、私は道院長になる気などまったくありませんでした。故小坂直樹先生(前埼玉北浦和道院道院長)の下で少林寺拳法をやっていたらそれで満足でした。少林寺拳法の教えも技も道院の仲間も好きですから、皆と技をかけあったり、演武をしたりしているだけで良かったのです。だから、昇段ということにも興味がなく、15年以上も正拳士4段のままでした。それが、3年前の小坂先生の突然の逝去。小坂先生のことを知っている拳士は、もうほとんどいませんね。私にとっては、人生の大きな転機でした。小坂先生が体調をこわされてから、1年ほど道場を任されていたのですが、道院長の下で指導するのと、自分が道院長として指導するのでは、責任感の雲泥の差です。しかし、小坂先生がここまで培ってきた埼玉北浦和道院をこのまま潰すわけにはいかないと、一念発起して道院長になることを決心しました。道院長認定研修会に参加し、5段位を取得し、そして、今回、大拳士の許可を受けました。まだまだ、この後、大導師の僧階を得なければ正式な「道院長」にはなれません。まだ、私は中導師ですので、「道院長心得」というわけです。

単に少林寺拳法を楽しみたいと、気楽にやってきた私ですが、師匠の死をきっかけに、自分で指導者としての道を選び、今までなんとかやってこられました。ここまでやってこられたのは、たくさんの人達の支えがあり、そしてたくさんの人との出会いがあったからに他なりません。おかげ様で、今、とても充実した日々を送っています。まだまだ未熟ではありますが、“人は変えられる”という開祖の言葉を信じ、少林寺拳法の教えと技を、そして、そこに集う仲間達を信じて、さらに道院長としての自己の在り方を見つめながらやっていかなければならないと感じています。人生は変えられるのです。最後に、「宗道臣語録・1」より、開祖の法話を紹介します。

人格者たらんとするのは、確かに窮屈で難しい。多少の悪いことやズルい計算をしたい気持ちが、心の中で、スーッと頭をもたげること、時にはある。でもだ、若い人たちに偉そうなことを言う先生という手前が、そういう自分に歯止めをかけてくれる。要するに、迫られ、恥ずかしいと思ひ、真面目になろうとし、だんだんとよくなっていく。これでいいじゃないか。

人間だから、「神のごとき完全無欠」なんてありえない。また、君らにだって完全は要求しません。でも、少なくとも、弟子に向かって言ったことは、日常の中で貫いていってほしいし、若い人ばかりに強いる人間になってほしくないとお願ひしたい。

最初はかなり悪かったとしても、現在から将来に向かってよくなるうしないか。人間は変わるし、また、変わらなければつまらない。毛虫だっていつまでも毛虫でいないだろう。途中で死んでないかぎり、ある日必ず蝶になる。君らだって今だ、蝶に脱皮しろよ。何かでハッと目覚める可能性は、人間ならもつとあるはずだ。「そのうち徐々にやるから待って下さい」では、人生は終わってしまう。くだらない奴に限って、結局は自分で自分をごまかしているだけなのに、「男がそうやすやすと変わったら恰好悪い」とか、「己の道は己で決める」なんて気取ったセリフを言う。でも、間違っていた、自覚した、感じるがあった…と、ハッとすることがあったなら、すぐに改めて恥ずかしいことないぞ。「忽然と今日から変わる」ことに、もっと大胆になれよ。(1971年3月 武専別科卒業式)

結手

### 事務連絡

① 一般財団法人少林寺拳法連盟への入会兼籍手続きのお願い。

前号でもお願いいたしました、連盟への入会手続きをお願いします。年間個人会費は3000円です。